

京都は明治期以後も多くの画家たちの制作拠点でした。画家たちは京都の町に住み、地域社会の中で生活していました。その中で、画家自身が地域の小学校に通った

り、また自分の子どもを活躍した日本画家の竹内通わたたりすることによって、画家と学校のつながりができていきま

り、また自分の子どもを活躍した日本画家の竹内通わたたりすることによって、画家と学校のつながりができていきま

り、また自分の子どもを活躍した日本画家の竹内通わたたりすることによって、画家と学校のつながりができていきま

り、また自分の子どもを活躍した日本画家の竹内通わたたりすることによって、画家と学校のつながりができていきま

ら、画家が子や孫の通う学校のために寄贈した絵画を紹介し

ら、画家が子や孫の通う学校のために寄贈した絵画を紹介し

ら、画家が子や孫の通う学校のために寄贈した絵画を紹介し

ら、画家が子や孫の通う学校のために寄贈した絵画を紹介し

## 子と保護者の姿 垣間見え

にと栖鳳が描いた1本のの画家上村松篁)が通う掛け軸を贈ったといいま初音小(中京区)のために、「税所敦子孝養図」

にと栖鳳が描いた1本のの画家上村松篁)が通う掛け軸を贈ったといいま初音小(中京区)のために、「税所敦子孝養図」



写真1、竹内栖鳳「虞美人草」(1920年)＝京都市学校歴史博物館蔵



写真2、澤部清五郎「草花図」(1932年)＝翔鸞幼稚園蔵

こつした作品からは、普段あまり語られない画家の一面が見えてきます。それは、学校に通う子どもたちの保護者としての姿です。画家もまた、一学区民でした。